

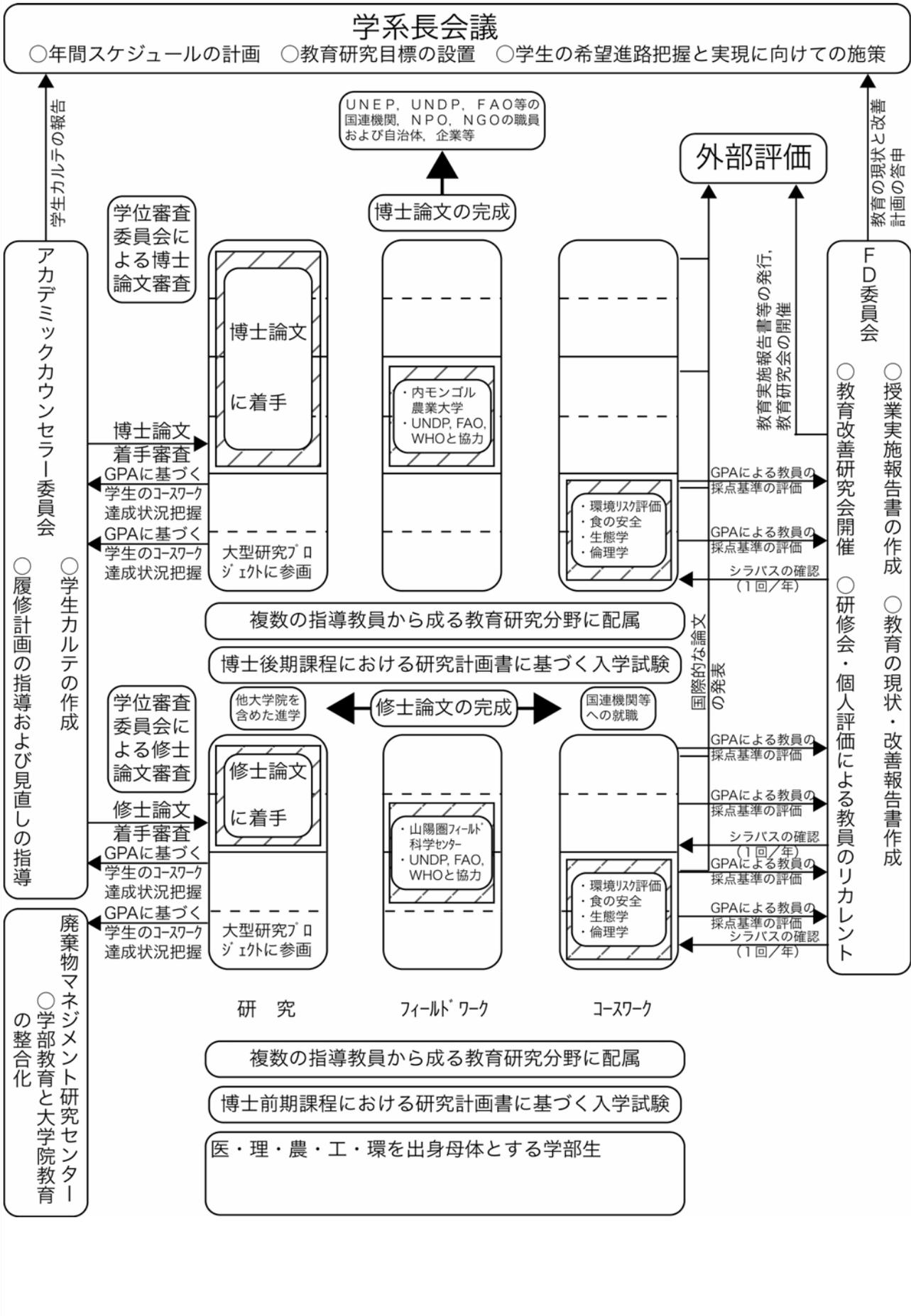
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	岡山大学	整理番号	b034
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	『いのち』をまもる環境学教育 (国連環境専門家の育成)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 環境学、社会医学、境界農学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (食の安全、アジアの拠点、感染予防、持続可能な社会、環境衛生)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 環境学研究科・生命環境学専攻[博士前期課程] 環境学研究科・生命環境学専攻[博士後期課程]	<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 中筋 房夫	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>岡山大学では「自然と人間の共生」を全学のテーマとして研究及び教育を推進してきている。平成6年には、環境理工学部が、平成17年度に大学院環境学研究科はその一環として設立され、専攻には、社会基盤、資源循環に加え、特徴的なことは公衆衛生学と生態学という、自然と人間そのものを扱う教育体制を組んでいることである。ここでは、自然と人間の現象、原理を理解しつつ、環境の問題に向き合える人材育成を企図した。</p> <p>本プログラムでは、それらを系統的に運用し、アジアの環境学拠点の一翼として、国連機関等で国際的に活躍する人材を輩出する課程を設けようとしている。生命を衛る視点とその解決する技術を修得する人材養成コースは、中四国地域において唯一、環境学専門コースに公衆衛生との連携を図る教育課程である。医療機関の集中する岡山エリアには、17年度にユネスコ事業として「持続可能な開発のための教育」プロジェクト地域に世界に先駆けて指定された。かつアジア医療支援ボランティアAMDA本部を抱える等、いのちをまもる環境学教育の拠点形成としては極めて適した環境にある。</p>			

機 関 名	岡山大学	整理番号	b034
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>「健康保障」のため安全・安心学の教育拠点構築をすることの必要性が高いと考えられる。社会一般には、環境に対する漠然とした不安へ対応するニーズがある反面、各学問分野に専門家が分散して、幅広い環境の専門家が必要とされている。こうした状況の中、岡山大学では平成15年度から21世紀COE「循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント」で拠点形成を行ってきた。このプログラムの中で、「循環型社会の安全・安心保障のグループ」では、人体や環境生物に曝露する化学物質の安全性や、新興感染症に対応するシステムの構築等を検討してきている。小野教授(資源循環学専攻)、吉良教授(医歯学総合研究科公衆衛生学)、青山教授(資源生物科学研究所教授)は、化学物質の安全性や曝露経路に関する評価を微小動物や、ヒト細胞、植物への影響評価を展開してきた。青山は、環境分野の国際誌Environmental ToxicologyのEditorであり、また、小野は、Water ResearchのEditorとSETACにおいて欧米の最新情報を入手する立場にある。山本助教授(生命環境学専攻国際保健分野)は、東南アジア諸国との感染症情報の拠点形成に長年たずさわりの、岡山に本部を置く国連認定NGOでもある国際医療ボランティア団体AMDA(アジア医師連絡協議会)の役員(前副代表)を務め、これとの共同行動にくわえ、国連機関(UNEP等)との連携を作るための人脈を有する。これらの人的基盤に基づいて、21世紀COEの安全・安心保障の発展的活用を行うことが将来の目標である。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本大学院環境学研究科における生命環境学専攻において、「『いのち』をまもる環境学教育」を実施するために、自然科学・医学・人文・社会科学の専門家がそれぞれの専門性を生かして動物・植物・人間の生命について、教育・研究指導を行い、最終的には「人間の安全保障」に通じる「いのち」を体系的に学ぶ取り組みを行っている。</p> <p>岡山大学大学院環境学研究科は、平成17年(2005年)4月に既存の自然科学研究科、文化科学研究科(5年制博士課程)、医歯学総合研究科(4年制博士課程)を改組して設立された。岡山大学は全国でも有数の11学部を有する総合大学で、本研究科には、全国で唯一の環境理工学部の他、農学部、医学部、歯学部、資源生物科学研究所、文学部、経済学部、法学部の教員が参加している。このように、「文理医の融合」型の教員組織で「自然と人間の共生」をテーマにした総合的な環境学を教育研究することを可能としている。とりわけ、医学(公衆衛生学)のBSEや鳥インフルエンザ等の専門家が教育研究に専任教員として参画している点が独創的である。</p> <p>近年、「食の安全」、「ダイオキシン」、「環境ホルモン」、「SARS」等の環境に関する問題が一般社会で高い関心を集めている。これらの諸問題を解決するには、野生動物、家畜や森林の生態学的法則を理解した上で、人への健康リスクを評価することが不可欠である。このような社会的ニーズをふまえ、本研究科では「環境と健康」を最優先の課題として取り扱うことを行っている。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名

岡山大学

整理番号

b034

< 審査結果の概要及び採択理由 >

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・これまでの実績を踏まえた計画は具体的かつ体系的で、実効性の高い成果が期待できる。地域トレーニングセンター、GPA（グレート・ポイント・アベレージ）制度等学生の能力を引き出し伸ばす工夫が随所に盛り込まれており、具体性のある計画として評価できる。
- ・幅広い環境分野の専門家育成は評価できるが、一方で将来の方向性を明確化する指導方法、特に国際的センスを育てる方法を一層具体化し、実行することが望まれる。